

分析結果報告書〔5〕 1 / 2

1.5 水質試料1 (亜鉛)

機関コード	
機関名	
電話番号	
国際的な認証等の取得 (複数回答可)	1. ISO 9001~9003 2. ISO 14001 3. ISO/IEC 17025(ガイド25) 4. M L A P 5. 環境省が実施するダイオキシン類の請負調査の受注資格
分析担当担当者名	
分析担当者の経験年数	()年
分析担当者の実績 (年間の分析試料数)	()

回数	分析結果 (mg/l) 注1)	
	検出下限値以上 注2)	検出下限値未満での検出下限値 注3)
1回目		
2回目		
3回目		

注1) 一旦受領した結果については、訂正があっても受け付けませんので、記入間違いや単位間違い等に注意する。

注2) 検出下限値以上であった場合、分析結果を有効数字3桁で記入する。

注3) 検出下限値未満であった場合、検出下限値を有効数字1桁で記入する。

分析開始月日	月 日
分析終了月日	月 日

分析方法	1. フルム原子吸光法 2. 電気加熱原子吸光法 3. ICP発光分光分析法 4. ICP質量分析法 5. その他()
使用した水	1. 蒸留水 2. イオン交換水 3. 超純水 4. その他()

< 前処理 >

試料量	()ml
準備操作 (前処理)	1. 塩酸性で煮沸 2. 硝酸酸性で煮沸 3. 塩酸による分解 4. 硝酸による分解 5. 塩酸と硝酸による分解 6. 硝酸と過塩素酸による分解 7. 硝酸と硫酸による分解 8. その他() 9. 前処理を行わない
前処理後の溶液(定容量) 注4)	()ml

注4) 定容とせず、全量で準備操作 (溶媒抽出等) した場合には、記入しない。

< 溶媒抽出等 >

準備操作 (溶媒抽出等)	1. 溶媒抽出 2. イオン交換樹脂カラムによる分離 (Cd) 3. 固相ディスク (ミノ二酢酸セルト樹脂等) による分離 (Zn) 4. その他() 5. 実施しない
前処理後の溶液の分取量 注4)	()ml
(溶媒抽出)	
溶媒の種類	1. 酢酸ブチル 2. MIBK 3. キシロ 4. その他()
セルトの種類	1. D D T C 2. A P D C 3. トリオキソアミン 4. その他()
抽出回数	()回
溶媒の使用量	()ml / 回
最終の定容量	()ml
最終溶液 (試験溶液) の液性	1. 硝酸酸性 2. 塩酸性 3. 有機溶媒 4. その他()

注4) 定容とせず、全量で準備操作 (溶媒抽出等) した場合には、記入しない。

分析結果報告書〔5〕 2 / 2

<原子吸光法>

試験溶液の希釈	希釈倍率() 注1)
電気加熱法 注入量 注入の方法 原子化の方法 セリウム-添加	() μl 1. 自動注入装置 2. 手打ち 1. 黒鉛炉 2. 耐熱金属炉 3. その他() 1. 添加しない 2. Pdを添加 3. Pd以外の添加
原子吸光分析装置 バックグラウンド補正 測定波長	1. 行わない 2. 重水素ランプ 3. 偏光ビーム 4. その他() () nm

注1) 希釈しない場合には、希釈倍率を「1」とする。

<ICP発光分光分析法>

試験溶液の希釈	希釈倍率() 注1)
ICP発光分光分析装置 装置の型式 バックグラウンド補正 超音波ワライナーの使用 測定時間 測定波長	1. 波長走査(ステップ) 2. 波長固定(マルチ) 3. その他() 1. 行う 2. 行わない 1. 使用しない 2. 使用する () 秒 () nm

注1) 希釈しない場合には、希釈倍率を「1」とする。

<ICP質量分析法>

試験溶液の希釈	希釈倍率() 注1)
積分時間(質量数毎)	() 秒
質量数	()

注1) 希釈しない場合には、希釈倍率を「1」とする。

<検量線の作成等>

定量方法 方法 内標準法: 内標準物質の種類	1. 絶対検量線法 2. 標準添加法 3. 内標準法 1. イットリウム 2. インジウム 3. タリウム 4. ビスマス 5. その他()
検量線 作成点数 作成範囲 最高濃度の指示値	() 最小() mg/l ~ 最大() mg/l 注2) ()
試料の指示値	()
空試験の指示値	()
検出下限値	() mg/l 注3)

注2) 分析装置で測定する溶液中の濃度(mg/l)を示す。

注3) 試料中の濃度(mg/l)を示す。

分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点	
--------------------------	--

計算式	
-----	--